



# 座談会

## 協会の40年、 そして 未来に向けて

すこやかな笑顔のために～

日時：平成22年11月17日(水) 16:00～17:30

会場：ホテルメトロポリタン盛岡

### Table Talk

歴代の会長と草創期のメンバーが語る  
協会の誕生から転換期、  
発展を支えた人たちの記憶

【出席者】

加藤十郎 [顧問]

高橋牧之介 [会長]

十和田紳一 [常務理事]

川村和子 [シニアアドバイザー]

司会・松尾洋一 [編集委員長]



## 加藤十郎

Juro Kato

昭和53年8月～昭和57年3月 常任理事  
昭和57年4月～昭和63年3月 副会長  
昭和63年4月～平成7年2月 会長  
平成7年5月～8年10月 名誉会長  
平成8年～ 顧問

よく言えば遠山さんは先見の明があったということになるが、悪く言えば遠山病院が患者集めのためにやっているのではないかとということで警戒されたわけです。



## 高橋牧之介

Makinosuke Takahashi

平成8年10月～ 会長

苦難の歴史も財産です。草創期のそういう経験があるから次の成長期にぐんぐん伸びることができたのだと思います。

### 発足当初は遠山病院と一体

**高橋** 本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。特にも顧問である加藤十郎先生には、わざわざおいでいただきまして厚く感謝申し上げます。さて、「前事の忘れざるは後事の師なり」と申しますが、過去の足跡をたどることは、不惑の40年を新たな出発点として行くうえでたいへん有意義なことであります。また、座談会の趣旨は、これまでの歩み、経験、歴史を通して今後の活動や未来へのヒントをつかみたいということだと思いますので、楽しかったこと、苦しかったこと、何でも結構ですから、形式ばらずに、生の声を聞かせてください。

**司会** 「形式ばらずに」ということです。で、早速、中身に入らせていただきます。当協会の歩みは、40年を10年ごとに分けて本誌の歴史編にまとめてありますが、ここでもその流れにそって進行させていただきます。

るのではないかとということで警戒されたわけです。

### 苦難の歴史は成長の財産

**司会** 事務所は、発足まもなくキンダーホームへ移りました。

**加藤** あの建物は産院だったようだね。

**川村** 旧済生会病院の産院でした。それを遠山病院が取得して保育園を経営していました。一階が保育園、二階が協会の事務所です。昭和46年に協会業務の一部を移転し、47年に全面的に移転しました。

**司会** 十和田さんと川村さんはその時代からのスタッフです。当時の様子はいかがでしたか。

**加藤** 昭和53年から県医師会が協会の運営に加わることになり、僕も総務として何度か見に行っただけ、非常階段で二階へ上がると狭い廊下があって薄暗い。建物がかなり老朽化しており、「ひどい所だな」とい

## Table Talk

### 協会の40年、そして未来に向けて

すこやかな笑顔のために～

ます。岩手県予防医学協会は、昭和45年10月に任意団体として発足し、同年12月に財団法人の認可を受けました。そのときの設立メンバーを見ますと、協会の産みの親である遠山病院理事長の遠山美知さん、県農協中央会長の岩持静麻さん、岩手放送社長の太田俊穂さん、岩手日報社長の渡辺武さん、盛岡市医師会長の八木義郎さん、岩手県国保連事務局長の千葉俊哉さんなど錚々たる顔ぶれですが、県医師会からはどなたも参加しておりません。加藤先生、そのあたりの事情はどういうことだったのでしょうか。

**加藤** 最初は、予防医学協会（以下、協会）というよりも遠山病院のイメージが強かった。県医師会が協会に関わるようになったのは、佐々木一夫さんが県医師会の会長になってからですね。僕は県医師会の総務担当理事でしたが、そのころになって郡市医師会でも協会に参加するかどうかを真剣に考えるようになった。平たく言えば、それま

うのが第一印象だったね。

**司会** 私も数年間そこで働きましたが、確かに暗い感じではありましたね。お昼近くになると裏手にある清水多賀から蒲焼のにおいが漂ってきたことを覚えてます。

**川村** 昭和55年7月に現在地へ移転するまでの約8年間、キンダーホームの二階で仕事をしました。施設も設備もスタッフも整った今から見ると隔世の感がありますけど、狭いながらも楽しい我が家だったような気がします。

**十和田** 実質的な創立者である栗原部長の夢は大きかったし、農協の応援もありましたから事業はどんどん拡大しました。ただ、初めのころは寄生虫検査が中心で検査の単価も100円、120円の時代でしたからね、これで大丈夫やっつけていけるのかなと正直思いましたね。

**高橋** 苦難の歴史も財産です。草創期のそういう経験があるから次の成長期にぐんぐん伸びることができたのだと思いますよ。

では予防医学に対する関心が低かったのです。

**司会** 医師会関係者では設立メンバーの中に八木義郎先生の名前がありますね。

**加藤** それは、盛岡市の医師会長としてではなく個人として入っているわけですね、ほかの人たちも遠山さんの人脈で集まった人たちです。そして、興味深いのは、遠山病院の院長も八木さんも旧制新潟医科大学の出身で、実は後に遠山美知さんから協会長を引き継いだ佐々木一夫さんも同じ、初代専務理事になった田島達郎君も新潟大学医学部の出身者だということです。

**司会** 立場は違っても先輩後輩のつながりがあったわけですね。

**加藤** そうです。ただし、設立当初の協会は事務所が遠山病院の中にあり、スタッフも遠山病院の関係者だから両者の区別があまりなかった。よく言えば遠山さんは先見の明があったということになるが、悪く言えば遠山病院が患者集めのためにやってい

将来の飛躍を託した検診車「あおぎり」

**司会** 歴史編の草創期を読みますと、そのころから農村巡回検診、子宮ガン検診、特殊健康診断など実に多彩な活動をしています。わずかなスタッフでどのようにしてそこまでやっていったのですか。

**川村** 協会の職員だけではなく、遠山病院の先生や看護師さんに応援してもらいました。

**司会** 県内初の検診車による循環器系検診も、昭和46年11月に前沢町（現・奥州市前沢区）の住民健診で心電図、眼底、総コレステロール、貧血検査などをセットした方法で実施していますね。

**十和田** 農協婦人部の方々が率先して検診を受けてくださった。それはたいへんありがたかったのですが、中には検診をかけたけど受診するというか、午前中に行政の心電図検査を受けたあとが胸についたまま午後には農協の巡回検診でまた心電図検査を受



## 川村和子

Kazuko Kawamura

昭和46年4月 医療法人遠山病院勤務  
 昭和47年4月 協会勤務  
 昭和49年6月 検診第二課長  
 昭和61年4月 県南支部事務次長  
 平成5年7月 健康管理部次長・  
 県南センター開発準備室長  
 平成6年1月 県南センター検診部長  
 平成9年4月 県南センター事業部長  
 平成10年6月 検診部長  
 平成16年1月 医療技術部長  
 平成21年3月 定年退職・アドバイザー

さんさ踊りの話が出たとき職員はシラーとしていましたが、田島先生は「まずやってくれ。お願いだ」とみんなに頭を下げて回りました。

診する方もいましたね。

**司会** 私も、午前中はこちらの腕、午後はこちらの腕で採血したという話を聞きまして。加藤 郡市医師会から見るとそのあたりが問題でね。協会と遠山病院の区別があいまいだし、検診のやり方を問題視する人もいた。

**司会** 当時の検診では、宮城県心臓血管病予防協会にはいろんな面で応援していただいようですね。

**十和田** そうです。協会所有の循環器系検診車のデザインや色も宮城県心臓血管病予防協会をモデルにしたもので、当初は名前も宮城県と同じ「のぞみ号」にすることをしましたが、岩手県独自の名前がほしいということで「おおぎり1号」になりました。おおぎりは、鳳凰という架空の鳥がとまり、そこから飛び立ったという伝説があり、協会の未来をその名前に託したのです。

おおぎりは、鳳凰という架空の鳥がとまり、そこから飛び立ったという伝説があり、協会の未来をその名前に託したのです。

## 十和田紳一

Shinichi Towada

昭和46年4月 医療法人遠山病院勤務  
 昭和47年4月 協会勤務  
 昭和49年6月 業務課長  
 昭和55年4月 健康管理部検診課長  
 昭和61年1月 健康管理部教育課長(兼)  
 第一臨床検査課長  
 平成元年4月 県南支所事務次長  
 平成6年1月 検診部長(兼)  
 医療技術部看護課長  
 平成8年9月 総務部長  
 平成12年4月 理事・総務部長  
 平成18年4月 常務理事・事務局長

# Table Talk

## 協会の40年、そして未来に向けて

すこやかな笑顔のために～

です。職員の思いがその名前に込められています。

**十和田** 協会は今でもその名前と最初のデザインを継承しています。宮城県心臓血管病予防協会の検診車はデザインが変わっていると思いますが、実はその原型が岩手に残っているのです。

### 協会の大転換を実現した大物会長

**司会** 草創期から発展期に移る節目で協会は大きな組織改革を迫られました。農村健康管理センター構想が浮上して県医師会との連携が必要不可欠になり、協会の栗原さんが県医師会の田島先生、及川正信先生に働きかけて全面的な協力を求め、昭和53年から県医師会が協会の運営に携わることになったわけですが、私は内部にいながらそのあたりの事情をほとんど知りませんでした。

**加藤** ちょうど東北新幹線が盛岡まで開業

**加藤** あれはデザインを公募して、最優秀賞として謝礼を5万円出したね。  
**川村** たくさん応募があり、その中から最終的に二つに絞ったのですが、佐々木会長が推したのではないほうに決まりました。会長に申し訳ないと思いました。  
**加藤** 博識でね、本を何冊も書いていた。  
**高橋** 私が持っているものだけで6冊ある。

**加藤** 佐々木会長が亡くなったとき本にしていない原稿がたくさん出てきたので、田島君が奥様から了解をえて出版した。  
**高橋** まだまだ活躍してほしかったが、ポツリ逝ってしまったね。

### 発展の原動力となった二人のリーダー

**司会** 協会の発展期、拡大期に欠かすことができないのが田島先生と栗原常務です。どちらも指導力があるのでうまくかみ合わせば大きく発展するが、馬が合わない組織

したところでね、それにあわせていろんな変化が起きた。盛岡駅前が新しくなり、川徳デパートが肴町から菜園に移り、その菜園に県医師会が土地を取得して新しい医師会館を建設することになった。あのとき県から補助金をもらったが、それと引き換えに一般市民も利用できる施設にしなければならぬということ、図書室や栄養指導室を作った。協会が県民保健センターとなり、

県医師会館は県立中央病院の病理の先生だった。田島君は県立中央病院の病理の先生だったが、そのあたりのことをいろいろ考えて県との交渉も一生懸命やっていた。いわば佐々木会長のブレンとして田島君が地ならしをして、いよいよ佐々木一夫会長の登場ということになったわけだね。

**司会** 遠山会長、佐々木会長、岩持会長、トップリーダー三人が何度も話し合って協会と県医師会との統合が実現したようですね。

**加藤** 農村健康管理センターを協会が運営

がバラバラになるのではないかと不安もあったように思いますが。  
**加藤** 田島くんは個性の強い男だったが、佐々木会長から協会の仕事をやってくれと言われて、「どうしたらよかんべ」とずいぶん悩んだようだよ。

**川村** たしかに悩んでおられました。あるとき「オレが協会へ行くことを君たちがどう思っているのか、本当のところを聞かせてくれ」ときかれました。私は「あわないと思います。先生は来るべきではないと思います」と率直に答えました。後からずっとそのことを言われました。  
**司会** どうしてそう思ったのですか。

**川村** 田島先生は病理の先生で病理に命をかけておられた。でも協会は公衆衛生の分野ですから先生の仕事と協会の仕事が続くつかないと思えたのです。





## 松尾洋一

Yoichi Matsuo

昭和51年4月 協会勤務  
 平成元年4月 検診部地域保健課長  
 平成5年1月 検診部産業保健課長  
 平成12年1月 県南センター事業部次長(兼)総務課長  
 平成16年1月 健診部長(兼)健康教育課長  
 平成19年2月 企画管理部長

ここ十年は、医療も予防医学をとりまく環境も大きく変化しており、世の中が変化してゆく中で協会がどう変わってゆくかを真剣に考えなければなりません。

**司会** 田島専務が亡くなったのが平成3年、栗原常務が亡くなったのが平成9年。その間にコンピュータシステムの本格的な稼働や県南センターの設立という大きな出来事があったのですが、協会としてはあまりふれたくない事件事故も起こりました。

**十和田** 田島専務の後任として着任した櫻井専務から、「組織にとつて25年目、30年目は大きな節目になるので注意しないといけない」と言われましたが、奇しくも25年目に不祥事が続けて起き、マスコミからもういぶん叩かれました。

**司会** そういうときに、平成8年10月、高橋会長が就任された。

**十和田** 40年の歴史の中で協会がいちばん苦しいときでしたね。

**高橋** 厳しい状況にあることはわかっていたんですが、「会長をやれ」といわれたとき



## Table Talk

### 協会の40年、そして未来に向けて

すこやかな笑顔のために～

**川村** さんさ踊りの話が出たとき職員はシラーとしていましたが、田島先生は「まずやってくれ。お願いだ」とみんなに頭を下げて回りました。普段は絶対に頭を下げない方でしたが、さんさ踊りのときは別でしたね。

**十和田** 組織が拡大して行く中で職員が一つになってさんさ踊りに参加できたのは、一体感を持つ上でいい刺激になりました。

**司会** 何万人もの大観衆が沿道で見つめる前で踊るのでスタートの直前は緊張しましたが、踊り終わったときは感激しました。みんなと一緒にやった達成感がありました。

**川村** 田島先生は、その達成感を皆に感じて欲しかったのだと思います。

**高橋** 新幹線が東京から盛岡に着くまでにウイスキーをボトル一本空けてしまうくらい呑み助だったけど、熱い情熱を持った男でしたね。

**加藤** その田島君がいちもく置いてコンビ

にあまり意識しないで引き受けました。そして会長になった直後に栗原常務が亡くなったわけだが、協会の事業そのものは発展が見込まれましたからたんと会長の役割を果たそうと思いました。

**司会** ここ十年は、医療も予防医学をとりまく環境も大きく変化しており、世の中が変化してゆく中で協会がどう変わってゆくかを真剣に考えなければなりません。

**十和田** 協会はこれまで行政機関や県医師会、郡市医師会、JAグループ、岩手医科大学など多くの関係機関のご協力、ご支援をいただいで事業を展開してきました。その関係を大切に、地域社会とのかかわりの中で事業を展開してゆくということは今後も変わりがないと思います。

**加藤** 変化を見極めることだね、何が変わり、何がかわらないのか。

**高橋** やるべきことはやらなければならぬ。要は人です。いい人が誕生しないと進歩はない。今の状態でこのままだと10年た

を組んだのが栗原君で、僕も「この男はたいした男だ」と思った。予防医学の発展ということでは全国の舞台に出しても主役になれるくらい夢もリーダーシップもあった。海外との交流にも力を注ぎ、あるとき彼がモンゴルへ行って帰国したとき、「ただいま帰りました」と挨拶にきたから、僕は思わず「なんで帰ってきたんだ」と言った。「どうしてですか」と聞くから、「君は馬賊の酋長になればもってこいの男だ」と答えた。もしあのままモンゴルで活動していたら今頃は大統領になってもおかしくない。それくらい男として魅力があった。

**司会** 今でも忘れられないのは、栗原さんが亡くなって霊柩車で火葬場へ行くとき職場へ寄ってくれてクラクションが鳴った。この話をすると、川村さんは泣いてしまいますね。

**川村** ミスマセン

**高橋** あの二人がいたから現在の協会がある。

っても同じ。新しい力を入れる。そこまで考える必要がある。

**司会** 田島専務、栗原常務の後も適任者に恵まれた。その時々の人つながりがあったと思います。

**高橋** この座談会の出席者は、創立50年のときはだれも協会に残っていない。草創期の歴史を自分の体験として語れる人がいなくなりました。だが、後生畏るべしでね、必要とされる組織は必ず誰かがやってくれます。そして、健診事業は包括医療体制の中で今後を着実に発展します。そのときに一番必要になるのが協会が働く医師です。価値のある医師がいなければならぬ。時間がかかるがそのための準備を今からしておくことが肝要だと思います。

**司会** ちよūdoyいまとめをしていただきました。本日はどうもありがとうございます。